

えびな文化財探求書 其ノ貳

# 史跡秋葉山古墳群



秋葉山古墳群復原推定図

海老名市教育委員会

## はじめに

住宅街の真ん中でうっそうと茂る森となつて  
いる秋葉山。約七十年前にはこの写真のように  
わずかな樹木しかありませんでした。今、樹林  
の中に残されている秋葉山古墳群は、発掘調査  
の結果、およそ一七〇〇年前にこの地域を統治  
していた歴代権力者の墓として造られたことが  
わかりました。

秋葉山古墳群が築かれ始めた時代は、邪馬台  
国の女王卑弥呼の跡を継いだ台与の時代と重な  
り、大型の墳墓（古墳）が作り始められるとい  
う大きな変化が始まる時期でした。

やがて勢力を全国へ拡大していくヤマト政権  
と秋葉山古墳群に葬られた人物達はどのような  
関係を持っていたのか…古墳の形や葬送儀礼か  
ら垣間見えるヤマト政権との関係は、大きな歴  
史ロマンを抱かせます。

秋葉山古墳群は、南関東における出現期古墳  
の在り方及びその時期の社会を考える上で重要  
と評価され、平成十七年七月十四日付け（文部  
科学省告示一〇一号）で国指定史跡となりました。

### 協力者（敬称略）

- ・池田武治
- ・宮坂淳一
- ・（公財）かながわ考古学財団
- ・社会福祉法人 中心会
- ・宗教法人 常泉院
- ・神奈川県教育委員会

### ◆秋葉山古墳群の名前の由来◆

第二号墳の後円部頂上は、標高八四・六mと  
市内で最も標高が高い地点です。この上に火を  
防ぐ神をまつた「秋葉社」という祠があった  
ことから第二号墳は秋葉山古墳と古くから呼ば  
れ、これが古墳群の名前となりました。

また、第一号墳の上には、山（比叡山）の神をま  
つた山王社の祠があり、山王山古墳と呼ばれ  
ていたと言われています。

写真・秋葉山第一号墳（昭和三三年頃撮影）

小さな木があるところが山王社

秋葉山古墳群が造られた時代

六世紀	五世紀	四世紀	三世紀	二世紀	年代	
	四一三年 四二一年 四七八年	四一三年	二六六年 二四八年頃	一四七年頃 一八九年頃		
出来事 (中国の歴史書から)					中国 中国日本	
倭の奴国王が後漢に遣使し、光武帝から金印を授かる。 倭国大乱『後漢書』 邪馬台国の女王卑弥呼が魏に遣使する。 親魏倭王の称号と金印紫綬、銅鏡等を授かる。『魏書』 卑弥呼死す。『魏書』 倭の女王台与が西晋に遣使する。『晋書』 ※以後約一五〇年間、中国の史書に倭国の記録なし 倭王が東晋に遣使する。『晋書』 倭の五王(讃・珍・済・興・武)が宋に遣使する。『宋書』						
梁	齊	宋	東晋	西晋	三国(魏・呉・蜀)	後漢
北魏			五胡十六国			
古墳時代				弥生時代		
後期	中期		前期	終末期	後期	
秋葉山古墳群						
上浜田古墳群						
伊勢山古墳群						
中野桜野遺跡						
本郷遺跡						
社家宇治山遺跡						
本郷中谷津遺跡						
国分尼寺北方遺跡						
国分宿遺跡						
国分尼寺北方遺跡						
国分宿遺跡(国分寺関連遺跡)						
					市内の古墳	市内の集落 方形周溝墓

表1 弥生時代から古墳時代の主な出来事と市内の遺跡関連年表

秋葉山古墳群が造られた時代

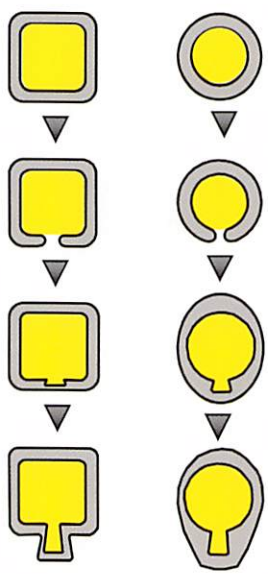
新しい発掘調査の成果や最新の年代測定法の導入などにより、古墳時代のはじまりが三世紀の前半にまで遡る可能性が最近の研究で指摘されています。三世紀前半という時代は、「魏志倭人伝」の記録をたどると女王卑弥呼が生きていた時代となります。これまで「魏志倭人伝」の記録はすべて弥生時代の記録として考えられてきましたが、これらの研究成果によれば弥生時代の終わりから古墳時代のはじめにかけて(三世紀代)の日本の「倭」の様子を伝えてくれていることとなります。

秋葉山古墳群に葬られた人も、「魏志倭人伝」に登場する卑弥呼と同じ時代に生き、海老名の地を治めていたと考えられています。

「魏志倭人伝」とは

三世紀の中国大陸とは、後漢ののち魏・呉・蜀という三国に分立しました。このいわゆる三国時代(二一〇～二八〇年)の歴史書である『三国志』の中の『魏書(志)・東夷伝・倭人条』を通称「魏志倭人伝」と呼んでいます。この歴史書は二八〇年代の前半に中国で書かれ全六五巻にまとめられており、「倭」の様子が約二〇〇〇文字の記述の中に詳しく記されています。この頃の日本にはまだ文字がないため貴重な記録です。

秋葉山古墳群が造られた時代



The map shows the distribution of different burial mound types across the Japanese archipelago in the 3rd century. Types include: 台状墓 (Platform mound), 四隅突出型 (Four-angled protrusion type), 円形型 (Circular type), 方形周溝型 (Square with moat type), 前方後円型 (Square-back circular type), 前方後方形 (Square-back square), and 長方・円形型 (Rectangular-circular type). A red dot indicates the location of the Akiyama Ancient Tomb Group.

図2 円形・方形から前方後円(方)形へ  
都出比呂志 2000『王陵の考古学』より作図

図1 三世紀頃の日本列島各地の墳墓  
赤塚 2002『AERA Mook 古代史がわかる』より作図



写真1 方形周溝墓群 海老名市社家宇治山遺跡 南から  
白線の囲みが方形周溝墓  
(写真提供 神奈川県教育委員会)

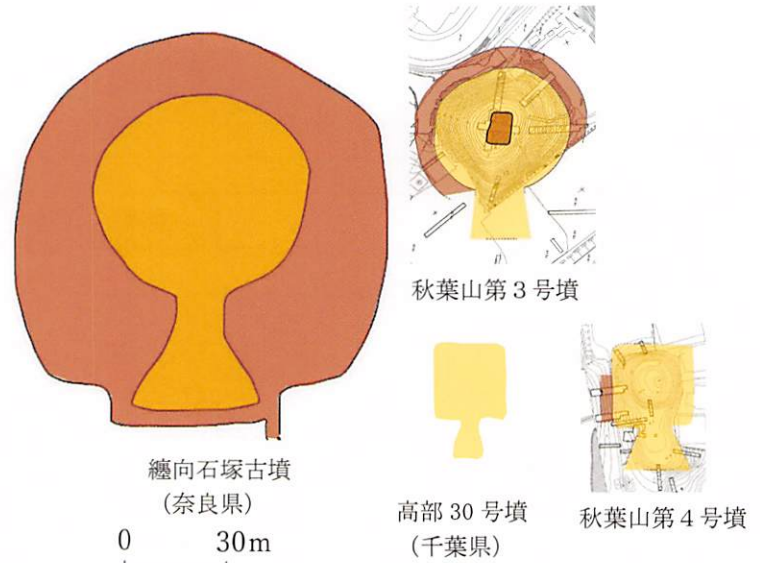


図3 秋葉山第3、4号墳と他地域の大型墳墓  
大阪府立弥生博物館 2005より作図

【三世紀の日本列島各地では】  
三世紀頃の日本列島各地では、弥生時代の中頃から続く伝統をふまえた墳墓が造られていました。その形態は円形や方形、あるいはその両方を組み合わせた様々なものでした(図1)。

宮崎県の平野部や大阪湾沿岸部、長野県の盆地、群馬県の平野部などでは円形を基本とする墳墓、山陰地方では方形の四隅が突出した墳墓、北近畿から北陸では台状墓と呼ばれる方形の墳墓、東海・関東地域では方形周溝墓が造られていました。

このように三世紀頃の墳墓は、日本列島各地でそれぞれ特色がありました。

やがて方形や円形の周溝墓は、前方部が発達した前方後円(方)墳へと変化していきます(図2)。秋葉山古墳群では、前方後方形と前方後円形の両者があり、日本列島の様々な地域から情報を得て墳墓が造られていたと考えられています。

【三世紀の海老名の集落遺跡】  
三世紀頃、相模川中流域の東岸では、河原口坊中遺跡・社家宇治山遺跡・中野桜野遺跡・本郷遺跡などで集落が営まれていました。また集落の近くに方形周溝墓がもうけられていました。

三世紀の後半になると、突如これまでこの地になかった高い墳丘をもつ墓が丘陵上に造られました。それが秋葉山古墳群です。

【四世紀以降の海老名の古墳】  
三世紀後半から続いた秋葉山古墳群は、四世紀後半になると途絶えます。四世紀後半以降になると古墳が造られる場所は徐々に南へ移り、上浜田古墳群(四世紀後半～五世紀後半)・伊勢山古墳群(五世紀末～六世紀前半)等が造られました。



写真2 上空からみた秋葉山古墳群



図4 秋葉山古墳群と周辺の遺跡

秋葉山古墳群を探る

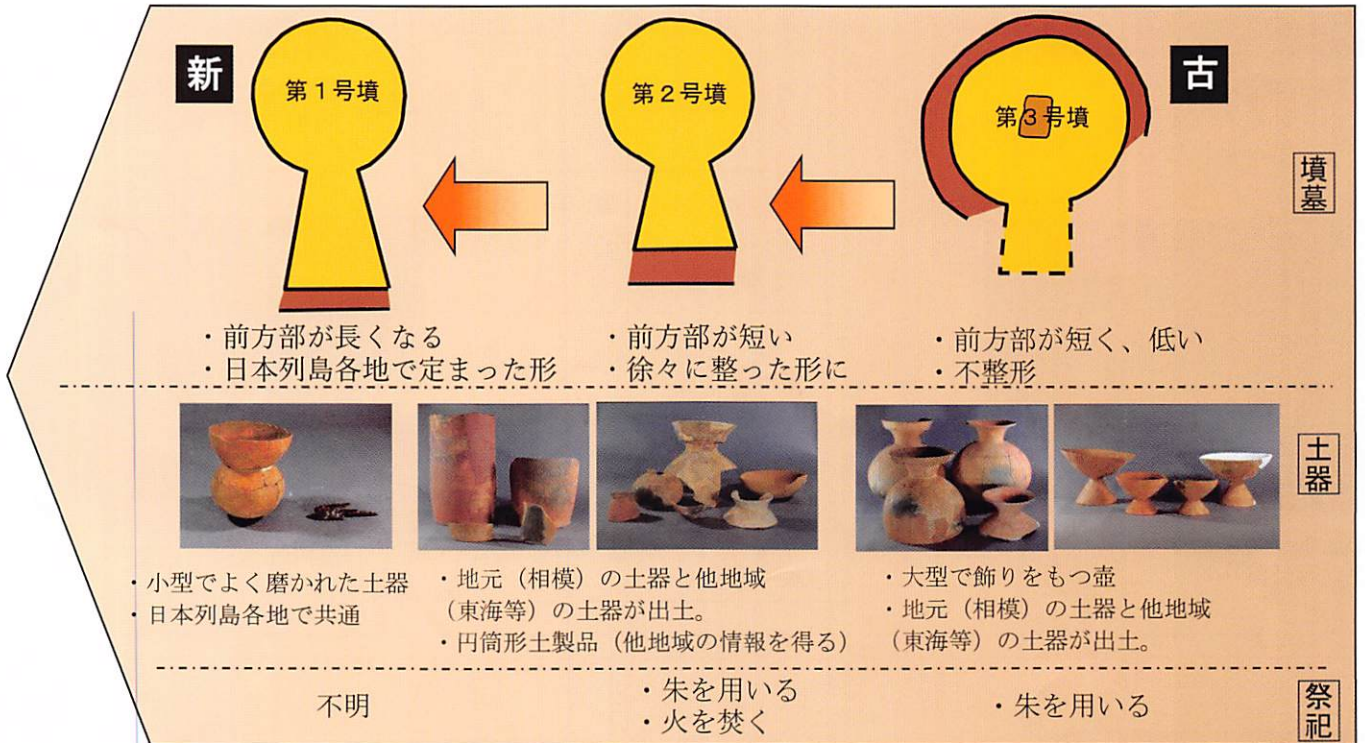


図5 秋葉山古墳群の変遷と特色

【秋葉山古墳群が造られた場所】  
 秋葉山古墳群は、海老名市内で最も標高の高い場所である座間丘陵の頂部(標高七五〇m)に位置し、尾根筋に連なって造られています(図4)。

西を望むと相模川が南北に流れ、のちに「海老名耕地」と呼ばれる水田地帯が眼下に広がります。また相模川の向こうには、丹沢の山々が構えており、大山を望むことができる一等地が選ばれて古墳が造られたと考えられます。

【秋葉山古墳群の特色】  
 発掘調査の成果によって、弥生時代終末から古墳時代初頭(三世紀後半～四世紀)にかけて継続的に造られた墳墓群であることがわかりました。年代が古い順に第3号墳・4号墳↓2号墳↓5号墳・1号墳となります。

墳形は、第4号墳が前方後方形、第1～3号墳が前方後円形、第5号墳は方形です。

古墳群の変遷をたどると、墳墓の形態・土器・祭祀などが地域色の強いものから徐々に日本列島で統一化されたものへと変化していくことがわかります(図5)。

中でも第3号墳は東日本において最古級の前方後円形(現状は円形状)の墳墓であり、注目を集めています。古墳時代の文化がこの周辺地域に広がる前に、いち早く情報を得ていたといえます。

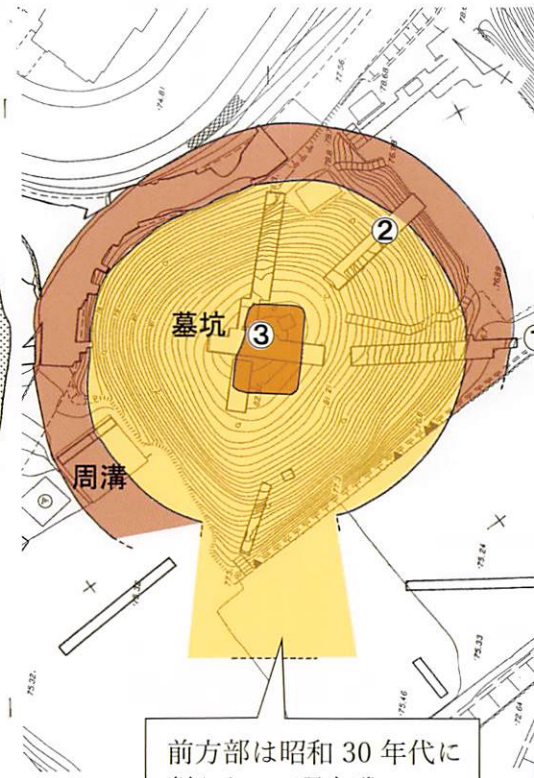
## 第3号墳



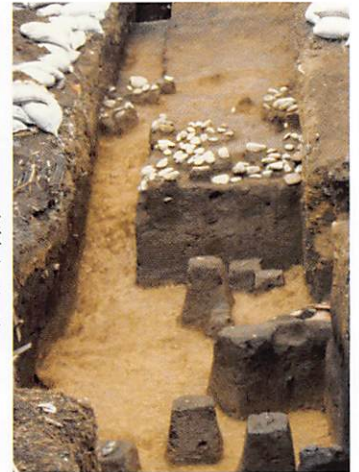
②墳丘構築状況 東から黒土とローム（黄色土）を交互に積み重ねています。



③墓坑上土器出土状況  
片口台付鉢（写真3、水銀朱付着）



推定  
51m



①周溝と後円部墳丘 南東から古墳の裾に礫が出土。

前方部は昭和30年代に削られて、現在残っていません。

年代：3世紀後半  
墳形：前方後円形（現状は円形）  
墳長：推定51m  
※大正時代の記録から  
出土遺物：水銀朱が付着した土器、大型壺



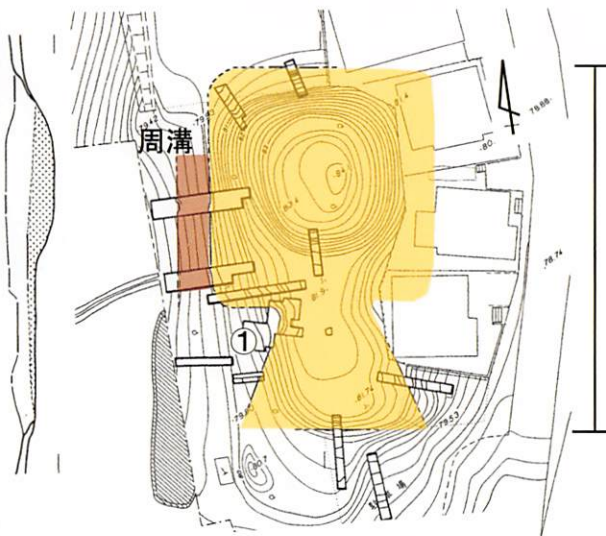
後円部全景 南東から



①くびれ部 南西からここで前方後方形であることが確定されました。



第4号墳全景 南から



37.5  
m

## 第4号墳



第4号墳出土大型壺



第4号墳出土遺物  
壺の破片、模様が刻まれています。

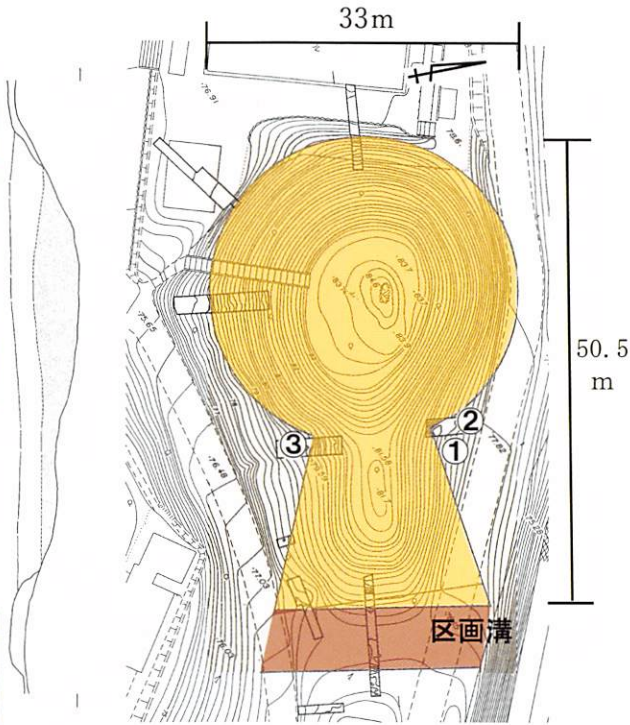
年代：3世紀後半  
墳形：前方後方形  
墳長：37.5m  
出土遺物：大型壺、壺の破片



③ 焼き火跡 南東から  
くびれ部の裾で浅い溝を確認。  
溝に埋まっていた土は赤く焼けていました。



第2号墳全景 南西から



年 代：3世紀末～4世紀初頭  
墳 形：前方後円形  
墳 長：50.5m  
後円径：33m（1号墳と同じ）  
出土遺物：円筒形土製品、壺  
水銀朱が付着した土器等

## 第2号墳



第2号墳出土遺物  
円筒形土製品、片口鉢、大型壺



①くびれ部 東から

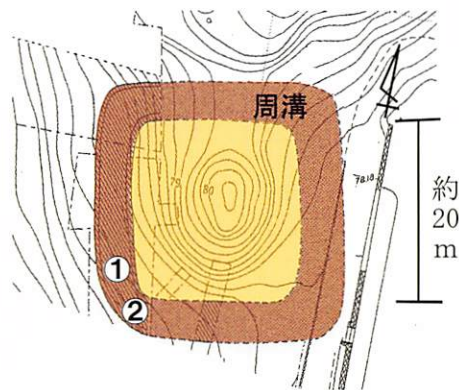


②円筒形土製品出土状況

## 第5号墳



①壺出土状況

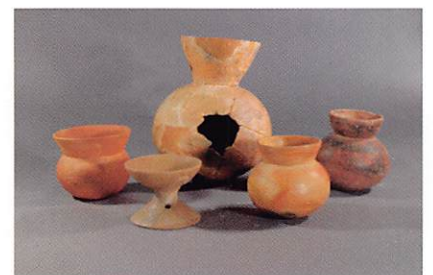


第5号墳全景 北から



②周溝 南東から

年 代：4世紀前半  
墳 形：方形  
墳 長：一辺約20m  
出土遺物：小型丸底土器、小型器台、壺



第5号墳出土遺物  
飾りはなく、丁寧に磨かれた小型の土器

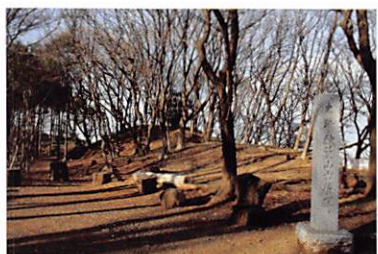
# 第1号墳



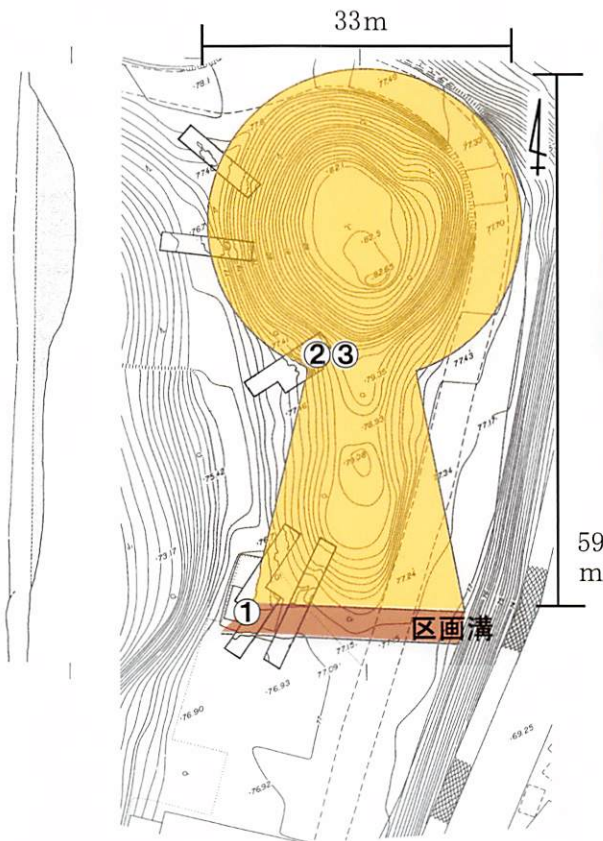
②くびれ部 東から



③くびれ部土器出土状況  
東から



第1号墳全景 南西から



①前方部の裾 南から  
前方部の南には区画溝があります。2号墳と同様に溝は前方部側のみで、一周しません。



第1号墳出土小型丸底土器



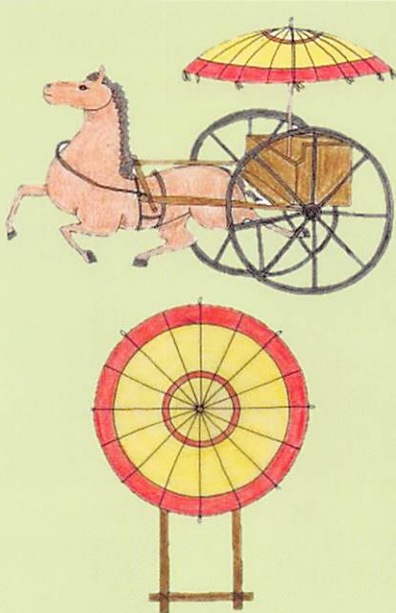
第1号墳出土鉄鏃

年代：4世紀前半  
墳形：前方後円形  
墳長：59m  
後円径：33m（2号墳と同じ）  
出土遺物：小型丸底土器、鉄鏃

## ◆コラム 前方後円墳の名前の由来◆

江戸時代の国学者である蒲生君平（一七六八〜一八一三）が『山陵志』の中で「前方後円形」と表したことが前方後円墳の名前の由来です。蒲生君平は古墳の起源について「宮車」を模倣したものであるという説を唱えています。宮車は古代中国の帝王が乗る馬車のことで、雨や陽射しを避けるために傘が立てられ、柄が前に延び馬に繋ぐ横木がつけられています。円くて高い傘と方形の低い長柄が組み合わさった形は古墳とそっくりで、車の進行方向から前方後円形と表現しました。また、古墳の円墳部は棺を埋める重要な場所であり、傘の下には王が乗車する重要な場所という共通の意味からも宮車を古墳の起源と考えたようです。

現在の学説では、弥生時代の円形周溝墓や方形周溝墓が古墳の突起状の祭壇が前方部に発展して前方後円（方）形の古墳が成立したと考えられています。



## 水銀朱

秋葉山古墳群の祭祀(葬送儀礼)

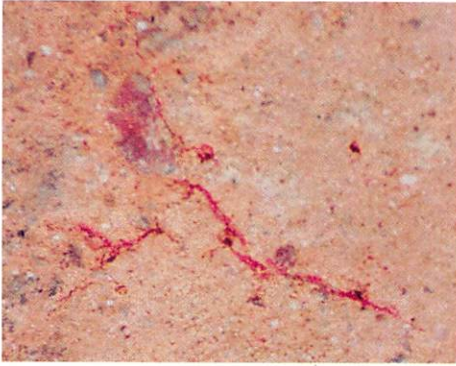


写真4 水銀朱の付着状況拡大  
(片口台付鉢[写真3左]内面)



写真3 内面に水銀朱が付着した土器  
(左3点:第3号墳、右1点:第2号墳出土)

## 円筒形土製品



写真6 特殊円筒土器  
島根県安来市造山1号墳  
(円筒埴輪 東京国立博物館蔵)  
Image:TNMImageArchives  
Source:<http://TnmArchives.jp/>



図6 特殊器台 宮山遺跡  
近藤義郎 2005 より作図



円筒の上半部  
(屈曲して開く)



内面  
(横方向に刷毛工  
具で調整→指で  
なぞる)



外面  
(縦方向に刷毛工  
具で粗い調整)



円筒の底部  
(厚く安定感がある)



写真5 円筒形土製品 (第2号墳出土)

【円筒形土製品】  
第2号墳から4点の円筒形土製品が出土しました(写真5)。墳墓上で行う祭祀用に作られた特殊な製品と考えられます。  
秋葉山の円筒形土製品と全く同じものは見つかりませんが、形や使われ方などから特殊器台(図6)の影響を受けている可能性が考えられます。この特殊器台はやがて円筒埴輪へと変わっていきます。特殊器台の影響を受けて造られた器台は現在の島根県や愛媛県の古墳においても出土しています(写真6)。

秋葉山第2号墳の円筒形土製品は、特殊器台のイメージからかなり離れることから特殊器台を伝えた人が作ったのではないかと考えられます。

【水銀朱】  
秋葉山古墳群からは朱が微量に付着した土器が出土しています(写真3、4)。第2号墳のくびれ部から片口鉢1点、第3号墳の墓坑上からは片口台付鉢2点、高坏1点の合計4点です。古墳上での祭祀を行う際に水銀朱を入れる容器として使用されたと考えられています。

水銀朱は、古代中国においてその色や防腐効果があることなどから、不老不死を願う仙薬として用いられていました。日本列島においても墳丘墓や古墳の遺骸に水銀朱を振りまく事例や朱を磨りつぶす際に用いた石臼や石杵が古墳から出土する事例があります。

秋葉山古墳群に葬られた人は水銀朱を用いた祭祀を知り、また希少価値のある水銀朱を手にいられるような権力者であったといえます。

秋葉山古墳群で行われた祭祀(葬送儀礼)

(前略) 其六、塚・円塚 海老名村上今泉字谷八百四十一番ノ内ニ存ス。地種目、山林ニシテ、常泉院ノ所有ニ属ス。海拔七十五米。村内第一ノ高地ニ在リテ、三塚東西ニ相並ベリ。太サ縦□間、横□間、高サ□ニ及ブ。中央ノ塚上ニ老松植ヒタリ。(後略)



写真8 第3号墳 東から  
昭和30年頃撮影  
社会福祉法人中心会提供



写真7 第2号墳 南西から  
昭和30年頃撮影  
社会福祉法人中心会提供



写真10 第2・3号墳遠景  
南から  
昭和32年頃撮影



写真9 第1・2号墳遠景  
南西から  
昭和32年頃撮影

資料1 『神社名勝古蹟誌』  
中山毎吉 明治43年



写真13 平成12年撮影 南から

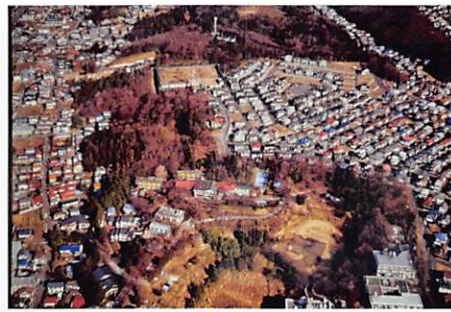


写真12 昭和63年撮影 南から



写真11 昭和24年撮影 航空写真  
国土交通省国土地理院蔵  
(財)日本地図センター発行

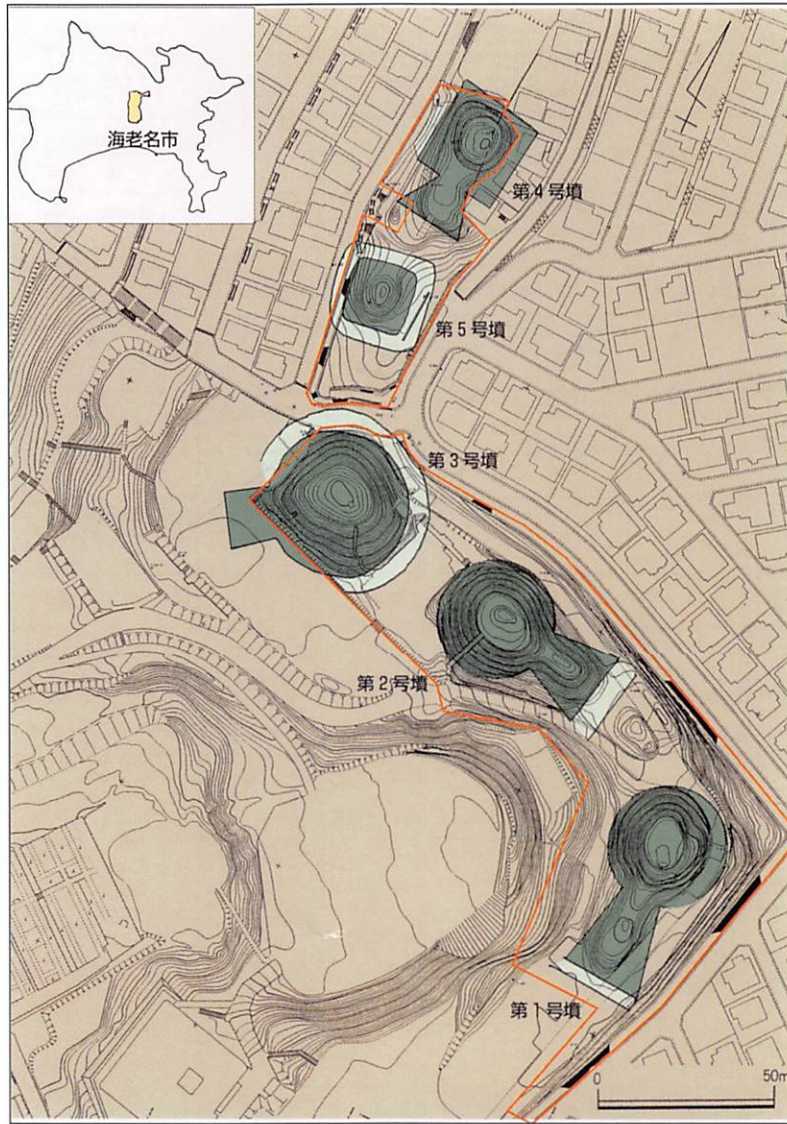
【研究の始まり】  
秋葉山古墳群が広く知られるようになったのは明治時代以降のことです。海老名小学校長で郷土史家でもあった中山毎吉(なかつまごきち)が明治から大正にかけて海老名村(現在の海老名市域の北半分)の遺跡を調べ、『神社名勝古蹟誌』(資料1)や『海老名村古墳調』などに書き残したことから学会に知られるようになりました。これらの貴重な記録により、今は現存していない古墳や秋葉山第3号墳に前方部があったことがわかります。

【開発の中で】  
昭和四〇年代になると秋葉山古墳群周辺も宅地化が進行してきました。昭和四四年には測量調査による現状確認、昭和六三年には区画整理事業に先立つ確認調査が実施され、県内で最古級の古墳群である可能性が指摘されるようになりました。残念ながらこの開発により確認された第3、5号墳の周溝の一部については、現状保存することができませんでした。

【史跡指定に向けて】  
このままでは古墳を保存することが難しくなっていくことから、秋葉山古墳群の保存と説明に向けて発掘調査を実施することになりました。これにより第1〜4号墳の規模が確認され、その出土品から三世紀後半(弥生時代末)から四世紀(古墳時代初期)にかけて造られたことが判明しました。また、発掘調査報告書の刊行により、研究者から注目され、平成一四年のシンポジウムによって県外にも広く知られるようになりました。こうして市民からも大きな関心を持たれるようになった秋葉山古墳群を永久保存するために、土地所有者である常泉院のご協力と地域の方の理解のもと平成一七年七月一四日付けで秋葉山古墳群は、国指定史跡に指定されました。

年度	内容	1号墳	2号墳	3号墳	4号墳	5号墳	調査者 著者
明治 43年 (1910)	『神社名勝古蹟誌』	「村内第一ノ高地ノ在リテ、三塚東西ニ相並ベリ」と記録			—	—	中山每吉
大正 9年 (1920)	『海老名村古墳調』	「古墳第13号、瓢塚」と記録	「古墳第12号、秋葉山ト呼ブ、瓢塚」と記録	「古墳第14号、瓢塚」と記録	「古墳第16号、瓢塚」と記録	「古墳第15号、円塚」と記録	中山每吉
13年	『相模国分寺志』	「山王山塚」と記録	「秋葉山塚」と記録	「無名塚」と記録	「無名塚」と記録	「無名塚の南に1基の円墳」と記録	中山每吉 矢後駒吉
昭和 44年 (1969)	墳丘測量	測量	測量	測量	測量	—	甘粕健
62年	発掘調査(第1次) 範囲確認調査	—	—	周溝、円礫、土器(壺)が出土。 前方後円墳と推定される。	周溝、土器(壺)が出土。 前方後円墳と推定される。	周溝、土器(壺)が出土。 方墳と確認される。	神奈川県 教育委員会
63年	発掘調査(第2次) 開発事前調査	—	—	周溝、土器(壺)が出土。	竪穴状遺構、土器(底部穿孔壺、器台)が出土。	周溝、土器(小型丸底土器、器台、壺)が出土。	秋葉山古墳群 遺跡調査団 日野一郎
平成 4年 (1992)	市史編さん事業 墳丘調査	測量	測量	測量	測量	測量	海老名市 市史編さん室
	発掘調査(第3次) 開発事前調査	—	—	円礫・土器(壺)が出土。	—	—	海老名市 教育委員会
6年	発掘調査(第4次) 範囲確認調査	溝(前方部前面)が出土。 墳丘の盛土を確認。	—	—	—	—	海老名市 遺跡調査会
9年	発掘調査(第5次) 学術調査	—	—	墓坑、土器(高坏、台付片口鉢)が出土。 墳丘の盛土を確認。	—	—	
10年	発掘調査(第6次) 学術調査	—	—	墓坑、周溝、円礫、土器(有段口縁壺)が出土。	—	—	
	発掘調査(第7次) 学術調査	—	—	前方部周辺地形を確認。	—	—	
11年	発掘調査(第8次) 学術調査	葺石・段築なしを確認 くびれ部、区画溝、土器(小型丸底土器)、鉄鏝が出土。	—	—	—	—	
12年	発掘調査(第9次) 学術調査	—	墳丘の盛土を確認。 葺石、段築、周溝なしを確認。 区画溝、くびれ部、焚火跡(くびれ部)、円筒形土製品、大型壺(大廓式、底部穿孔)、小型壺、甕、片口鉢(水銀朱付着)が出土。	—	—	—	
13年	発掘調査報告書刊行	第5～9調査			—	—	海老名市 教育委員会
14年	発掘調査(第10次) 学術調査	—	—	くびれ部位置の推定。	周溝が出土。 葺石・段築なしの確認。	—	
	シンポジウム『墳丘墓から古墳へー秋葉山古墳群の築造ー』(平成14年12月14日)						
	発掘調査(第11次) 学術調査	—	—	—	周溝土器(壺)が出土。 葺石・段築なしの確認。	—	
15年	発掘調査(第12次) 学術調査	—	—	—	くびれ部、土器(壺)が出土。 前方後方形と確認。	—	
	発掘調査報告書刊行	—	—	第10次～12次調査		—	
16年	国指定史跡申請(平成17年1月21日)						
17年 (2005)	国指定史跡告示(平成17年7月14日)						

表2 秋葉山古墳群の調査・研究の歩み



名 称：史跡秋葉山古墳群  
 指定日：平成 17（2005）年 7 月 14 日付  
 文部科学省告示 第 101 号  
 種 別：史跡  
 面 積：12,365,07 m<sup>2</sup>（ 指定範囲）

えびな文化財探求書 其ノ弐

## 史跡秋葉山古墳群

平成 17 年 10 月 18 日 初版発行  
 平成 18 年 9 月 15 日 改訂  
 平成 21 年 3 月 31 日 改訂  
 令和 6 年 6 月 1 日 改訂  
 編集・発行 海老名市教育委員会  
 教育部教育総務課文化財係  
 海老名市中新田 377  
 046-235-4925



案内図